

# 生活介護事業所 奏楽

## 令和3年度 事業報告書

### 《令和3年度の経過と評価》

開所当初から、一貫して、『みんなで笑顔あふれる職場をつくろう！』をテーマに掲げてきた。利用者一人ひとりが、よりよく生きること（生きがい・達成感）を目指し、そのための手段として日中活動種目（生産活動・余暇活動）を設定している。生産活動では、一人ひとりの能力に応じた作業が出来るように細分化に努めた。具体的には、工程を単純化して、障害の重い利用者でも、関われる機会を増やし、職員や仲間から認めてもらう、褒めてもらえるような機会を作り、やりがいや能力の向上に務めた。また新たな可能性の追求や、ステップアップを目的として、ジョブローテーションを計画したがほとんど実施が出来なかった。

ワンランク上の支援を目指すために毎日の振り返りを通して、良かったこと、課題を時間を置かずに共有するように努めた。毎月の班会議、支援会議、また職員会議等を通して、『皆が笑顔で主役になれる』ためにはどのような支援をする必要があるかを考える機会を設けた。また、良い支援をするためには職員が笑顔でなくてはならないと考え、職員同士で良い所を言う『良いところ探し』も定期的に行った。しかし、コロナ渦もあり職員会議等の時間短縮を余儀なくされ、深堀が不十分だった点は否めない。

事業運営については1名、ステップアップのために他事業所に移り29名となった。定員充足を目指し、新型コロナウイルス感染対策を行ないながら、積極的に見学者を受け入れた。

組織作りに関して、中・長期的視点で人材育成をすすめた。法人主導のもと、事業所と連携・協力して『人材育成を目的とした人事評価制度の取り組み』を本格的に開始し、職員のスキルアップ、支援体制づくりを進めることが出来た。また、月2回の管理者会議の実施により、事業所間の連携・協力体制が強固になってきたが、もう一步踏み込んでいく必要を感じた。

地域との関りについては、コロナ渦もあり年度当初の計画から大幅に変更を余儀なくされた。しかし、秋以降、コロナ感染症が落ち着いたのを機に事業所前の駐車場にて、青空市を毎月行なう計画をたてた。11、12月と開催し好評を得た。その後は、コロナ感染者数の増加を受けて中止となってしまったが、長らくできなかった地域との関わりを持てることができた。

【喫茶班（Café 奏）】は、コロナ渦の影響により増収が厳しい状況であったが、検温、消毒、時短、席数を減らすなど、お客さんと利用者を守るための感染対策を徹底しながら店舗の営業継続を行った。LINE 公式アカウントやブログ、Instagram 等の SNS を活用し、店舗の宣伝のみならず、利用者の活動状況も発信し障害理解のための情報発信にも努めた。新商品については地元の名産の柿を使った石巻柿プリン、フレンチトースト、静岡産の農薬不使用の和紅茶等を取り入れた。また、コロナ禍に留意して、テイクアウト商品（たこ焼き、お好み焼き、イカ焼き、みたらし団子等）の充実に努め集客につなげることが出来た。しかし、テイクアウトは、利用者の関りが少なく、利用者の充実感、やりがいと言う点では課題が残った。今後は作業手順の細分化、見直し、利用者

ひとり一人の能力に合わせた工夫が求められる。

【焼き菓子班（OYATU 工房という）】は、コロナ渦の影響によりイベントの多くが中止となり販売先に苦慮したが、季節の商品を開発し、定期的な予約販売にも力を入れた。購入しやすい価格設定、柔軟なギフト商品作りも人気があり個人での大量注文も多かった。ギフトについては、定番商品のカタログを作成しより多く方に知っていただきたい。また、売り上げ増のためにワンランク上の商品づくりとして、昨年度から楽<sup>2</sup>班で育てた自然栽培の野菜を練り込み、国産小麦の使用など厳選素材を使用したクッキーの販売している。今年度は、自分たちでも野菜から作ってみようと、小さなスペースを借りて野菜を育てて商品に変えていくという貴重な体験が出来た。また障害の重い利用者でも関わることが出来るカリッとクッキーも人気が出てきている。店舗メニューにて好評を得ている手作り味噌の販売も引き続き行い人気を得ている。味噌づくりは手間がかかるが、工程を細分化することにより多くの利用者に関わることが出来るため良い作業となっている。イベントの中止により、販売に参加する機会が減少したのは残念であったが、代替えとして、環境整備、体力づくり充実など様々な体験をすることが出来た。

【軽作業班（楽<sup>2</sup>）】では農作業（自然栽培）を軸とした組立てを行い、全国的な組織である自然栽培パーティーに参加している。月2回のWEBによる勉強会に参加し、作物の栽培、販売方法、利用者の仕事づくりなどの情報交換が頻繁に行え、職員の知識の向上やモチベーションアップ、事業の拡大に貢献できた。農作物では、主力商品のブルーベリー長雨の影響で後半失速したが、さつまいもは豊作であった。サツマイモは、加工して干し芋として地元の有名スーパー等に置いていただいてとても美味しいと評判を得た。干し芋の作業については、ハウスを改良して作業場を拡大し、工程を見直すことで多くの利用者に関われるようになった。品質も向上し、お客様や取引先店舗からも高い評価を得ることが出来た。夏場の熱中症対策のため、短時間での作業設定、ミスト式の大型扇風機の導入、経口補水液などを用いて健康面にも配慮し、安心して生産活動ができる環境を整えた。委託作業については、主力であったパクチーの袋詰めが減り、エンジンの袋詰めが増えたため難易度が下がった。同時に作業室のレイアウトも変更し流れ作業で行いやすい環境を整えることが出来た。作業効率が向上し時間に余裕が出来たため作業が早く終わった時は、健康体操や、ゲームをするなど、余暇活動を充実させることが出来た。年度末には、新たにドックフードの袋詰めも始め工賃向上に努めていきたい。

#### 《重点課題に対する取り組み》

##### 1. 運営基盤の強化（運営・管理体制、サービス管理）

月2回の経営会議、管理者会議を通して法人内の連携を進めることができた。また、中長期計画に沿って法人内の他事業所と連携し、人事評価制度の本格実施を行なった。まだ、課題も多いが改善を繰り返してより良いものにして行きたい。多機能型事業所童里夢とは、同じ日中活動事業所として送迎等で協力する場面も多く、協力体制は整えられている。職員体制については、年度途中で退職者が出たこともあり日々の職員配置に苦

労した。加えて、らくらく班については他事業所との兼務職員や時短職員が多く日によって、職員ハイツが手厚いときと薄いときの差がみられるのが課題である。利用者数は1名がB型事業所に移籍し29名となった。見学希望者に対して丁寧な説明を心掛けるなど、定員充足に努め来年度は、新卒者2名が利用予定となった。今後は利用率の向上やよりたくさんの方の加算が取れるような体制作りを進めたい。

## 2. 利用者サービスの拡充

法人理念のもと、『どんなに重い障害をもっていても、立派な生産者と認めあえる』ように障害特性に配慮しながら生産活動を中心とした事業運営に努めた。生産活動では、重い障害を持った方でも自信をもって関わられるように作業工程を細分化、単純化する取り組みを進めた。試行錯誤の繰り返しが多いが、今後も工夫を継続していきたい。コロナ禍の影響もあり、生産活動の収益が減少し工賃の減額も危ぶまれたが、農薬物の豊作、新商品の開発、テイクアウトの充実などで売り上げを増やすことが出来た。お互いを認めあう活動として、毎日の帰りの会の際に『いいねタイム』をもち、利用者の良かった言動を互いに褒め合う時間を作り定着化してきている。また、『いいねの木』を作成、食堂に掲示し、『いいねの見える化』を継続して行っている。クラブ活動（レクリエーション、書道、リズム体操、太鼓、茶道、ダンス、さをり）についてはコロナウイルスの感染状況に留意し、休止と再開を繰り返しながらの設定を行った。クラブ活動休止中は代替えとして、小グループでのレクリエーションの設定を行った。日帰り旅行については、コロナウイルス感染が落ち着いている時期に変更した。今回、初めて童里夢と合同で計画し、いくつかの方面の中から自分で行きたい所を選択する機会も提供した。法人全体の忘年会については、昨年度に続いてオンラインにて開催することが出来た。内容も前回から工夫され、利用者の満足度は高かった。次年度も、コロナウイルス対策に留意しながら新たな形を模索し、メリハリを持った支援を行っていきたい。

## 3. 人材育成/支援力の向上

事業所・職員の役割として、利用者一人ひとりが『その人らしく、より輝いていけるよう』支援する事が根幹であり、日中の様々な活動はそのために存在する事を会議など様々な場面で共有、確認を行ってきた。日々の支援については、朝夕の小ミーティングや未参加者のための引継ぎファイル、グループメールの発信を頻繁に行い情報共有に努めた。しかし、深掘りが足りず、解決に向けた取り組みは不十分な部分も見られた。また、支援ソフト『ほのぼの』の導入により、他事業所との共有も簡単になったが、機能を十分使いこなせているとは言い難い。研修については、オンラインによる研修が確立され、今まで参加が難しかった遠方での研修にも参加する機会を得ることが出来た。反面、オンライン研修は手軽である一方、現地参加の緊張感がないため、より高い意識をもって研修に臨む必要性を感じた。次年度は、伝達研修の充実などにより、緊張感をもって参加する雰囲気を作って行きたい。法人全体研修では、ヒヤリハットについて学び、報告書を書くことで事故を未然に防ぐ意識が高まった。他に他事業所の支援についての取り組み発表の機会を設けたり、小グループでの親睦会を通して互いの理解、親睦を深めることが出来た。

《 地域活動：事業所の社会化 》

福祉体験学習・ボランティア体験学習・職場体験学習等 受入日／人数					
受入日	学校名	人数	受入日	学校名	人数
新型コロナウイルス感染拡大のため実施しなかった					

《 事業所外生活支援：自立（律）生活訓練（宿泊体験）の連絡・調整 》

自立（律）生活訓練（宿泊体験） 人数												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
延べ人数	0	0	0	5	0	0	6	0	2	0	0	0
新型コロナウイルス感染拡大のため実施しなかった 年間延べ人数： 13人												

《 防災計画・安全管理：防災訓練、防災委員会活動 》

防災訓練・学習 実施日			
4/23、 24	防災学習 (熱中対策について)	10/20	防災学習（東京消防庁動画より防災クイズ）
5/19	防災訓練（地震想定）	12/17	防災訓練（地震想定）
6/16	防災学習（火災発生時の避難訓練について）	1/19	防災訓練（火災想定）
7/16	防災訓練（地震想定）	2/16	防災学習（避難経路の確認、注意事項）
8/21	感染症対策学習会	3/19	防災訓練（地震想定） 引き取り訓練
9/17	防災訓練（地震想定）		

防災委員会活動	
5/20	今年度年間計画・担当者の確認
8/19	非常災害対策計画（BCP）の更新、感染症BCP、個人カード
11/17	送迎時防災、防災マップ、3月総合防災訓練について
1/22	送迎時防災、防災マップ進捗、3月総合防災訓練について 来年度の課題の洗い出し
3/17	引取訓練についての確認 送迎時防災、BCPへの職員への周知について、来年度について

## 研修の実施状況

月	内容	対象者
4月	自然栽培パーティー勉強会（オンライン）	生活支援員
5月	自然栽培パーティー勉強会（オンライン）	生活支援員
6月	自然栽培パーティー勉強会（オンライン） 虐待防止・アンガーマネジメント研修（オンライン） 権利擁護・虐待防止研修 第1回法人全体研修（ケース記録の書き方/人事評価制度）	生活支援員 生活支援員 生活支援員 法人全体
7月	マネジメント研修 中級者研修（オンライン） 自然栽培パーティー勉強会（オンライン）	主任 生活支援員 生活支援員
8月	マネジメント研修 虐待防止研修（オンライン） BCP研修（オンライン） 中堅職員研修（オンライン） セルフ療育研修会（オンライン） 自然栽培パーティー勉強会（オンライン）	主任 管理者、主任 生活支援員 生活支援員 生活支援員 生活支援員
9月	マネジメント研修 東海地区施設長等研究協議会（オンライン） 口腔ケア研修会 療育研修 自然栽培パーティー勉強会（オンライン） 農福連携セミナー 現場で働くあなたのための研修 第2回法人全体研修（ヒヤリハット、事故報告書の書き方、コロナ禍の活動）	主任 管理者 生活支援員 生活支援員 生活支援員 生活支援員 生活支援員 法人全体
10月	マネジメント研修 仕事と介護両立セミナー 意思決定支援と虐待防止に関する研修 自然栽培パーティー勉強会（オンライン）	主任 管理者 生活支援員 生活支援員
11月	自然栽培パーティー勉強会（オンライン） マネジメント研修 食品営業講習	生活支援員 生活支援員 食品衛生責任者
12月	第3回法人全体研修（各事業所取組紹介） 虐待防止・身体拘束適正化研修（オンライン）	法人全体 管理者、主任
1月	強度行動障害支援者養成研修（オンライン） 自然栽培パーティー勉強会（オンライン）	生活支援員 生活支援員
2月	虐待防止アンガーマネジメント研修（オンライン） 自然栽培パーティー勉強会（オンライン）	事業所職員 生活支援員
3月	第4回法人全体研修（利用者支援活動発表会）	法人全体

3年度 生産活動売上状況

月	奏+という 売上金額 (円)	楽2 売上金額 (円)	計 (円)
4	338,180	131,040	469,220
5	226,634	145,770	372,404
6	275,732	424,314	700,046
7	343,110	379,890	723,000
8	336,557	294,777	631,334
9	464,765	167,325	632,090
10	406,490	140,590	547,080
11	450,510	122,163	572,673
12	455,795	393,984	849,779
1	290,000	310,391	600,391
2	288,365	358,871	647,236
3	432,295	218,293	650,588
計	4,308,433	3,087,408	7,395,841

《原材料費率＝原材料費／売上金額》

原材料 費合計	1,233,709	297,787	1,531,496
比率	28.6%	9.6%	20.7%

## 【障害支援区分別人数】

## 生活介護

性別	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	非該当	合計
男性	3	6	7	1				17
女性	4	3	5					12
合計	7	19	12	1				29

※平均障害支援区分： 4.7

## 【年齢別人数】

## 生活介護

性別	20歳未満	20-25	26-29	30-39	40-49	50-59	合計
男性	2	4	2	4	3	2	17
女性	1	1	1	1	5	3	12
合計	3	5	3	5	8	5	29

性別	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	33歳5ヶ月	19歳8ヶ月	57歳0ヶ月
女性	39歳8ヶ月	19歳10ヶ月	50歳11ヶ月